

■ 市長から市民のみなさんへ

山陽小野田市長
白井 信文



■ パラサイクリング

ブラジルのリオで開かれていたオリンピックも全部終わりました。感動の日々でしたね。前半が健常者の大会。後半(パラリンピック)が障がい者の大会。その自転車競技(パラサイクリング)に出場した選手は、全員、山陽オートで合宿した選手でした。

選手のみなさんの努力の甲斐あって、藤田選手、鹿沼選手、田中選手の3人が銀メダルに輝きました。知らせを聞いて、思わずバンザイをしてしまいました。また合宿に来てくれるそうです。

6月に山陽オートレース場で合宿練習した選手のみなさん



■ 環境調査センターと山陽オートのつながり

山陽オートは、地方福祉の向上を目的に本市が施行している事業ですが、国(正確には、国の窓口ともいべきJKA)に所定の交付金を納めることが法律で義務付けられ、この交付金が全国各地の福祉に関する事業に充てられる仕組みとなっています。他の公営ギャンブルも、ほぼ同様の仕組みです。ちなみに、平成27年度

の山陽オートの売上額は約65億円、JKAへの交付金額は約2億6,500万円でした。

JKAは、毎年、地方福祉の向上に役立つ各種事業を公募しますが、今年は本市の環境調査センター(高泊公民館の隣)が欲しがっていた環境汚染物質の分析等に使う分析計装置がJKAの審査をパスし、競争入札の結果1,381万3,200円で業者が決まり、近く機器が届くことになりました。なかなか予算が回せなかった分野だけに、環境調査センターではとても喜んでいきます。

山陽オートでは、JKAへの交付金のほか、毎年、独自に本市のため事業補助をしてきていて、例えば各公民館のトイレの水洗化など、山陽オートのおかげです。

■ 生き抜く力

「今の社会では、少しの壁・^{あつれき}軋轢・トラブルでつぶれてしまう、そのような人間的タフさに欠ける子どもが増えているように思われます。…そうした現実を前にしたとき、教育は、「生きる力」はもとより、「生き抜く力」を身に付けさせることに重点を移す必要があるようです。…日本のような均質な社会ほど、子どもの評価も減点主義になりがちですが、どのようにすれば真の生き抜く力をもつタフで思いやりのある子どもが育てられるか。そろそろ減点主義ではなく加点主義へと教育の舵^{かじ}を切り替える時期に来ているのではないかと思います。」

(平成28年度市教育振興大会(市内の小中学校教員全員が参加)での教育長の挨拶から)